

## 【日私教研 新年メッセージ】

2024 年は、自然と社会と精神が分断されることによって大惨事が起き、その痛みは遠くの出来事ではなく私たち一人ひとりに重くのしかかってくることを改めて受けとめなければならない覚悟の時代を迎える瞬間から始まりました。

思えば、私たち「一般財団法人 日本私学教育研究所」では、2011 年の東日本大震災の時にその覚悟を持ち、特に 2022 年から 21 世紀型教育を意識した教育研究を推進してまいりました。2023 年からは、有志団体である「21 世紀型教育機構」において、日本国内初の取り組みである「アクレディテーション（品質認証）」によって、21 世紀型教育の持続可能性と質的進化を果たすシステムを全国に紹介し始めたところでした。當にわが国の教育のバージョンアップを試みる準備段階であると認識して、現在に至っております。

2020 年には、パンデミックに直面しましたが、私立学校は授業を止めずに速やかにオンライン授業で対応したところも多くありました。生徒の命と精神と学びを守る 21 世紀型教育の持続可能性を証明し、「21 世紀型教育」を行っている私立学校の存在が価値あることを示しました。このように私立学校の歴史的な流れに伴う進化のなかで、当研究所も全国に 21 世紀型教育を普及させるというミッションを第一義に掲げて活動することに至りました。

そして 2024 年、再び東日本大震災に匹敵する激しい揺れの能登半島地震に見舞われたのです。自然というのは、自然と社会と精神の循環を持続可能にするように、人間に畏敬の念を抱かせながら根源的な言動をかくも促すものなのだと感じない日はありません。多くの老若男女の命が失われるニュースを日々目にしています。また、こうしている間にも、ウクライナやガザをめぐる自然と社会と精神の分断が激しく、多くの人が貴重な命を落としています。もはやこの悲惨な有様と痛みは、遠くの出来事では済まされないのです。

ですから、目の前の生徒の命と学びの機会を今まで以上に守ることが私立学校教育の使命であることを皆様と共有させて頂きたいのです。

2024 年は、もし元号が昭和のままだとしたら昭和 99 年です。いよいよ時代は本格的に質量ともに 21 世紀型教育に移行しています。同時に、目の前の生徒が 100 歳を迎えるときには、すでに 22 世紀になっていることに思いを馳せ、「22 世紀型教育の準備をしていく転換点」でもあります。

地政学リスク、気候変動のリスク、精神不安のリスク、人工知能リスク、あらゆる局面での社会的結合のリスクなどを乗り越え好転させる知（知性・感性・身性・社会性・宇宙性などの包括知）はいかなるものなのか。自然と社会と精神の循環を修復し持続可能にし、人類の新しい平和と新結合を生み出す子供たちの叡智と行動と新しい価値を生成する「22 世紀型教育」へ共に邁進していきましょう。

一般財団法人 日本私学教育研究所 所長 平方邦行

No. 2 (2024. 1)

# 平方所長 インタビュー動画掲載 「Z世代とα世代」

令和4年7月、首都圏模試公式YouTubeチャンネルに平方所長のインタビュー動画が掲載されました。

Z世代とα世代、学校でのICT活用、グローバル教育についてなど、幅広い内容となっております。

動画は以下のリンクからご視聴ください。

[https://youtu.be/a9yIJ-1R\\_hg](https://youtu.be/a9yIJ-1R_hg)

[私学トピックスNo.30](#)にも掲載しております。



令和4年8月  
一般財団法人日本私学教育研究所



## 【新所長挨拶】 21世紀型の教育を、私学から



20世紀型の教育は、大量の知識の習得や、過去の経験の追体験を重視していました。しかしそれだけでは、未来に起こる問題を解決できないはずです。2020年から続く新型コロナウイルスの流行はまさに、「予測不能」な社会現象の最たるものの一つですが、子どもたちは未知の局面に遭遇した時に、的確に判断できる力を学校教育の中で身につけねばなりません。これまで行われてきた、知識偏重型の教育や過去の経験に頼るばかりでは、未来を切り拓くことは到底できないのです。

変容する社会で生き抜くためには、「自己変容型知性」を身につけ、磨く仕組みづくりと、向上心を持ち、粘り強く努力を続けることのできる Growth Mindset を持つことが不可欠です。そのために教育の中心に据えるべきは、批判・創造といった高次思考であり、レクチャー型の授業ではそれらは習得できません。グローバル社会では、情報通信技術（ICT）を活用した教育が一般的になり、STEAM（科学、技術、工学、美術、数学）教育などの未来を見据えた欧米諸国の教育や世界中に広がる国際バカロレア（IB）では、児童生徒が私用のタブレット端末やPCを授業中に活用する「BYOD（Bring your own device）」が当たり前になっています。

一方わが国では、知識偏重の20世紀型教育から脱却できない中等教育が見えてきます。そこに楔を打ち込むため、一方通行型の教育から双方向型の教育を模索し、牽引する「21世紀型教育を創る会」を2011年9月に有志数人で設立しました。現在、「21世紀型教育機構」に加盟し、双方向型の協働的な学びを実践する学校に対し、ア kredィテーション（品質認定）を設定し最低基準を定め教育の質の保証と向上を同時に目指しています。私立学校には、「21世紀型教育」を実践できる可能性にあふれています。

子どもたちは、いつの時代も私たち大人が経験したことのない未来を生きていきます。未来は、Z世代の若者や、Creative Classの若者こそ未来社会を創造できる可能性を持っているのです。その未来社会がデストピアではなくユートピアであるために、子どもたち自身が協働し、自分たちによる自分たちのための、そして人類のための新しい社会構想を創造・実践するプロジェクトを動かしていくことが大切です。多様化し、変わり続けるグローバル社会において、もはや皆が横並びで目指していく「解」はありません。子どもたちが、自分の未来をデザインできる実現力を持った若者となるよう、教職員の皆様には子どもたちの学びをサポートしていただきたいと思います。そして私立学校は、「建学の精神」はもとより、在野の精神を持ち、常に「独自性」と「先進性」に満ちあふれていることが「いのち」であると肝に銘じて、学校づくりをすべきである——私はそう確信しています。

